

【参考】

○ 国が策定する教育振興基本計画について

【教育基本法】

第17条 政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。

※ 国の教育振興基本計画の範囲

計画の対象範囲は、原則として教育に関する事項とし、高等教育と密接に関連する学術や、スポーツ、文化芸術教育等も、この計画に含めるものとする。(中央教育審議会)

○ 長野県教育振興基本計画の対象範囲について

教育委員会が所管する教育に関する施策・事業	○公立学校教育、○生涯学習、○社会教育 ○スポーツ
知事の権限に属する教育に関する施策・事業	○大学教育、○私立学校、○文化芸術
教育と福祉など他の行政分野との境界領域で、教育委員会と知事部局が相互に連携して進める施策・事業	○困難を抱える子ども・若者の自立支援 ○子どもの未来づくり 等

第3次教育振興基本計画 基本フレーム

■ 現状改善型アプローチ

● 現行計画の検証

項目	評価	課題

(今までのベクトルを前提に、今より良くなることを目指す)

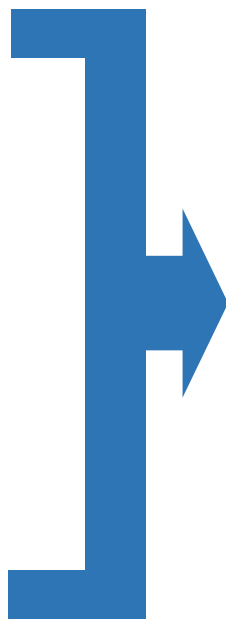
■ 未来構想型アプローチ

● 国が提示した未来 次期学習指導要領

● 信州が創る未来

未来像	現状	ギャップ

(実現したい未来像を前提に、逆算してやるべきことを考える)



計画の体系

- 基本理念
学びの県構想
- 信州から未来を創る
先端プロジェクト
- 重点政策
- 総合体系(政策一施策)

基本フレーム 展開例

■ 現状改善型アプローチ

- 現行計画の検証

■ 未来構想型アプローチ

- 国が提示した未来

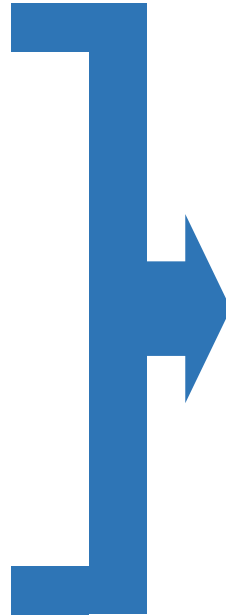
次期学習指導要領

◇「何を教えるか ⇒ どう学ぶか」
への転換

◇主体的・対話的で深い学び

- 信州が創る未来

クリエイティブフロンティア



基本理念

感性溢れる叡智で未来を拓く「学びの県」
「本物から学び、学び合い、学び続ける信州人」

■ 学びの県構想

学びの県コンセプト

- (例)
- 信州ならではの学びで、感性溢れる叡智を持った信州人が育ち・活躍する長野県にします。
 - 自ら問いを立て、考え、行動することが好きな信州の子ども達を育てよう。
 - すべての子ども達に良質で多様な成長体験の機会を与えることは、社会の責任だ。社会全体でその責任を果たそう。そのために大人も学び続けよう。

■ 信州から未来を創る先端プロジェクト

- (例)
- 中山間地の学び
 - ICTの活用
 - 信州教育の現代的復刻
 - 野外自然教育
 - etc

■ 重点政策

■ 総合体系

信州教育の未来像

時代の潮流

〔 確実な変化と不確実な未来 〕

×

信州のポテンシャル

〔 信州はクリエイティブフロンティア 〕

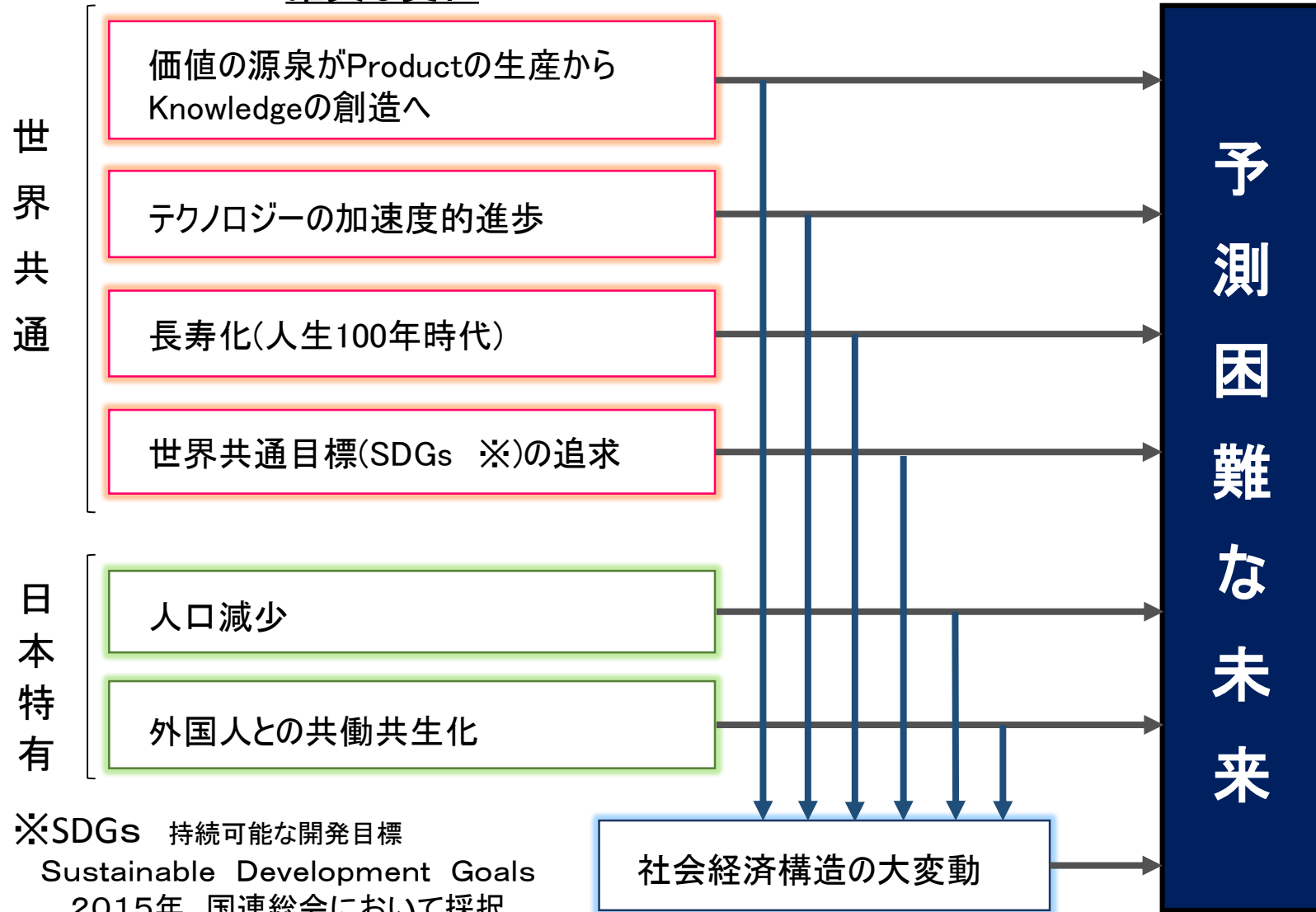
信
州
教
育
の
未
来
像

【コンセプト例】

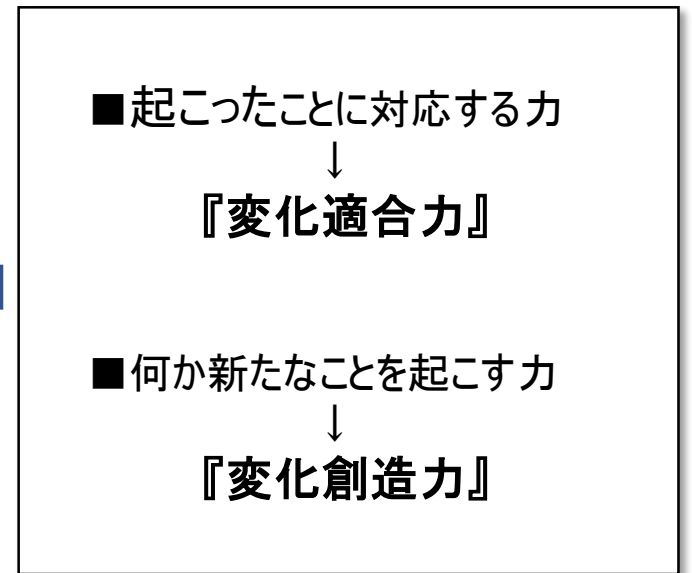
- さすが信州で学んだ子は一味違う
- 学びの時間を複線化し人を活かす
- 誰でもいつでもどこでも学び、学び直せる
- 中山間地はクリエイティブビレッジ

確実な変化 と 不確実な未来

確実な変化

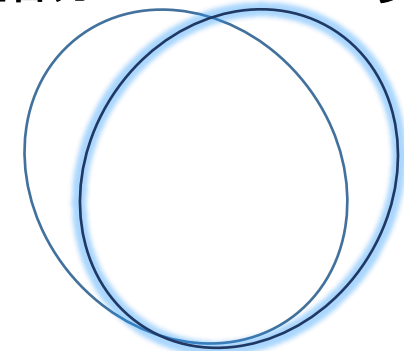


[必要とされる力]



変化適合力

変化創造力



※SDGs 持続可能な開発目標
Sustainable Development Goals
2015年 国連総会において採択

信州は“クリエイティブフロンティア”～感性溢れる叡智で未来を拓く「学びの県」～

	農業社会	工業社会	知識基盤社会 知価社会※
価値の源泉	食糧の生産	Productの生産	Knowledgeの創造
方法論	農地拡大	労働集約・資本集約	叡智集約
山国信州の優位性	不利	不利	○(ポテンシャルとして)
逆境を克服し、新たな活路を見出す努力(例)	<ul style="list-style-type: none"> ○傾斜地の桑畑を利用した養蚕 	<ul style="list-style-type: none"> ○製糸工場から疎開企業を中心とした「軽薄短小型」の製造業へ ○山岳高原を活かした観光業 	<ul style="list-style-type: none"> ○テクノロジーの発達により、どこでもいつでも叡智集約が可能な時代に ○新たな知の創造のためには、創造性を育む環境こそが重要 ○創造性＝感性×知性 ○機械に代替されない信州ならではの「感性溢れる叡智」

五感を研ぎ澄まし知的に動く

感性溢れる叡智で逆境を克服

※ 堺屋太一（1985年）「知価革命 工業社会が終わる・知価社会が始まる」（PHP研究所）

学びの県にふさわしいゴールを設定する(骨太のゴールイメージ)・未来構想型アプローチ

	ゴール1	ゴール2	ゴール3	ゴール4
コンセプト	さすが信州で学んだ子は一味違う	学びの時間軸を複線化し人を活かす	誰でもいつでもどこでも学び、学び直せる	中山間地はクリエイティブビレッジ
内容	<p>○国が定める方向性を基本価値と捉え、その上に信州で学ぶことの独自の価値を付加する。</p> <p>○信州で学んだ子は... ・自ら機会を創出し、機会によって自らを変えられる。 (フロンティアスピリット・学びの姿勢) ・多様性から価値を生み出すことができる。 (相互触発力・叡智集約力) ・土地の記憶を自分の財産としている。 (アイデンティティ・感性)</p>	<p>○画一的な学びの時間軸が、それに適合できない子の成長の機会を奪っている。</p> <p>○すべての子どもが、成長の実感を得られるよう、多様な学びの時間軸と、それにふさわしい多様な学びの場と方法を整備する。</p>	<p>○変化の激しい社会と人生100年時代の到来により、誰もが主体的に学習・再学習を繰り返す必要がある。</p> <p>○すでにある様々な教育資源と最新のテクノロジーを活用し、学ぶ場・学び合う場、学びの循環を創出する。</p>	<p>○知価社会のクリエイティブフロンティアという視点から、中山間地を捉え直す。</p> <p>○中山間地の学校を、学びの最先端として位置づけ、クリエイティブビレッジを地域とともに創り上げていく。</p>
方法論(共通項)	<p>○テクノロジーを最大限活用する</p> <p>○自前主義ではなく協業主義で</p>			